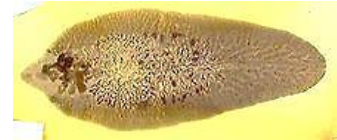


てつ 肝蛭症

肝蛭（かんてつ）症は、以前は特定の地域で乳用牛によく見られた寄生虫の感染症ですが、近年、稲の給与が減少するにつれてあまりみられなくなりました。しかし、最近は山羊を飼養する方が増え、水田や水辺の野草を山羊に給与する機会が増えてきたことから、県内の山羊で肝蛭の寄生が確認されました。改めて、肝蛭症の予防についてお知らせします。

▶肝蛭とは？

肝蛭は木の葉のような形をした吸虫で、牛やめん羊、山羊が口から幼虫を摂取すると肝臓内の胆管に寄生します。



肝蛭の成虫（大きさ2～3cm）

▶感染するとどうなる？

削瘦、貧血、食欲減退、繁殖障害などの症状を示しますが、大部分は症状を示さずに慢性化します。

▶どのように感染する？

肝蛭の虫卵は牛などの糞便とともに排泄され、ふ化します。

ふ化した幼虫が水田や小川に生息するヒメモノアラガイという巻貝に寄生します。

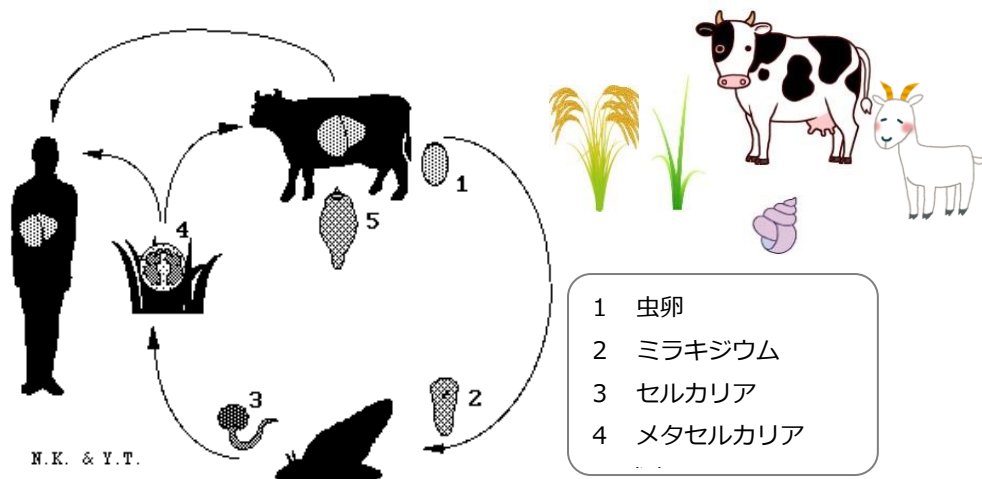
貝の中で成長した幼虫は水中に泳ぎ出て、稲や水辺の野草に付着します。

幼虫が付着した稲や野草を牛や山羊などが食べることによって肝蛭に感染します。

* 肝蛭はヒトにも感染します。

ヒトでは水辺の野草に付着した幼虫や家畜の肝臓に寄生した幼弱な肝蛭を摂取して感染します。

【肝蛭の生活環】



▶どのように予防する？

稲わらを給与する場合は安全のために4ヶ月以上保存したもの、もしくはサイレージ化したものを使用しましょう。また、野草を給与する場合には念のために定期的な牛やめん羊、山羊に駆虫薬を投与することが必要です。